

第1章 「バンヤンツリー・プーケット」と「アマンプリ」

1 プーケット国際空港からバンヤンツリーへ

タイの首都・バンコクのスワンナプーム国際空港から国内線の飛行機で1時間少々、マレー半島がもつとも細くなるクラ地峡を越えてさらに南、半島が少しだけ膨らむ辺りにプーケット島は位置する。玄関口となるプーケット国際空港は、滑走路は1本だけながら3,000mあり、2020年の「コロナ・ショック」以前には、バンコクからの国内線のみならず、香港、シンガポール、クアラルンプールといった近隣からの国際線、北京、成都、上海などの中国路線、他にも中東やヨーロッパ、オセアニアからの直行便も就航していた。タイを代表する一大リゾート拠点である。

ここは、同国最大の面積を誇る島であり、この島を中心としたプーケット県を構成している。エメラルドグリーンの海と白い砂浜の美しさもあり、「アンダマン海の真珠」とも呼ばれていることから海のリゾートのイメージが強いが、島内は意外と起伏に富んでいて、豊かな緑に囲まれている。

海上交易における地理的重要性から、過去にはさまざまな勢力の争いに巻き込まれてきた。16世紀頃からはスズが産出されるようになったが、1985年のロンドン金属取引所（LME）におけるスズ取引停止、いわゆる「スズ危機」以降、採掘ビジネスは衰退してしまった。ただ、その前の1976年にプーケット国際空港が開港しており、1980年代後半以降はタイを代表するリゾートの1つに数えられるようになった。2004年にはスマトラ島沖地震による大津波に襲われるが、その後の復興は順調に進み、再び活況を呈するようになる。

他のリゾート地と同様、プーケット国際空港のターミナルを出ると、島内に数多く存在するホテルから迎えが来ている。事前に予約をしておけば、空港に着いてすぐにそのままリゾートに直行できるので、きわめて利便性が高い。

島内は、国道402号が南北に貫いている。空港は島の北方に位置しているが、そのさらにやや北にあたる島の最北端から、島の南東部にあるプーケット島の中心地といえるプーケット・タウンまでをこの道は結んでいる。また、そのちょうど中央辺りで分岐する国道4030号は、バンタオ・ビーチ、スリン・ビーチ、パトン・ビーチ、カロン・ビーチといった島の西部に位置する著名ビーチをめぐっている。多くのリゾート・ホテルはこの国道4030号沿いか少し入ったところにあり、アンダマン海の絶景をほしきままにしている。

2019年11月、私はプーケット国際空港に降り立った。ここに来たのは2度目である。初めてプーケットを訪れたのは2014年3月だったが、このときは学生の研修先を視察することが主目的であり、プーケット・タウンとその周辺のホテルをめぐる程度しかできな

図表 1－2 プーケット島の中心部拡大図



出所：Google Earth。

った。今回の訪問は、本書の主題である「アマン・リゾート (Aman Resorts)」と「バンヤンツリー (Banyan Tree Hotels & Resorts)」の最初の施設が、奇しくもともにこの地であったことから、改めてそれぞれをこの目で確かめたいと考えたからだった。前回は、時間の関係でどちらも訪問できなかったのである。

プーケット国際空港から送迎車に乗り、国道402号、そして国道4030号を行くこと約30分、「ラグーナ・プーケット (Laguna Phuket)」と名づけられた広大なリゾート・エリアの入り口に到着する。実はこの場所こそが、バンヤンツリーの創業の地でもある。文字通り左右にラグーンが点在する敷地内をさらに行くと、バンヤンツリーの系列である「ダーワ (Dhawa)」、「カッシーア (Cassia)」、「アンサナ (Angsana)」のエントランスも見え隠れする。そして最後に、フラッグシップとなるバンヤンツリーのエントランスに到着となる。

なお、海沿いの国道4018号を通ると、距離的には少しだけショートカットとなるようだ。ただし、クネクネとした山道をたどることになり、結果的に時間はほぼ変わらない。

広大な「ラグーナ・プーケット」には、他にも「モーベンピック (Mövenpick)」、「アウトリガー (Outrigger)」、「デュシ・タニ (Dusit Thani)」といった著名リゾートが点在しているが、そもそもこのエリア全体を開発したのはバンヤンツリーであった。もともとはスズの採掘が行われていた場所であったが、前述したスズ危機以降うち捨てられていた。同社が入手したのはよかったが、土壌が汚染されていたために、大変な苦勞をしてリゾート地に作り上げた。この辺りの詳細は、第3章を参照されたい。

2 ラグーナ・プーケットの施設

バンヤンツリー各施設の詳細についても、基本的には第3章で述べる。ただし、ラグーナ・プーケットにはバンヤンツリーが展開するブランドが揃っているため、それぞれの施設についても言及しておこう。なお、本項の内容は

2019年11月時点のものである。

空港から自動車で国道402号、4030号を経由して来訪した場合には、まず、図表1-3左下のメイン・エントランス (Laguna Main Entrance) に到着する。

メイン・エントランスの周辺では、至るところで「Laguna」の文字が出迎えてくれる。植栽文字で象られているところもあり、リゾート気分を盛り上げてくれる。

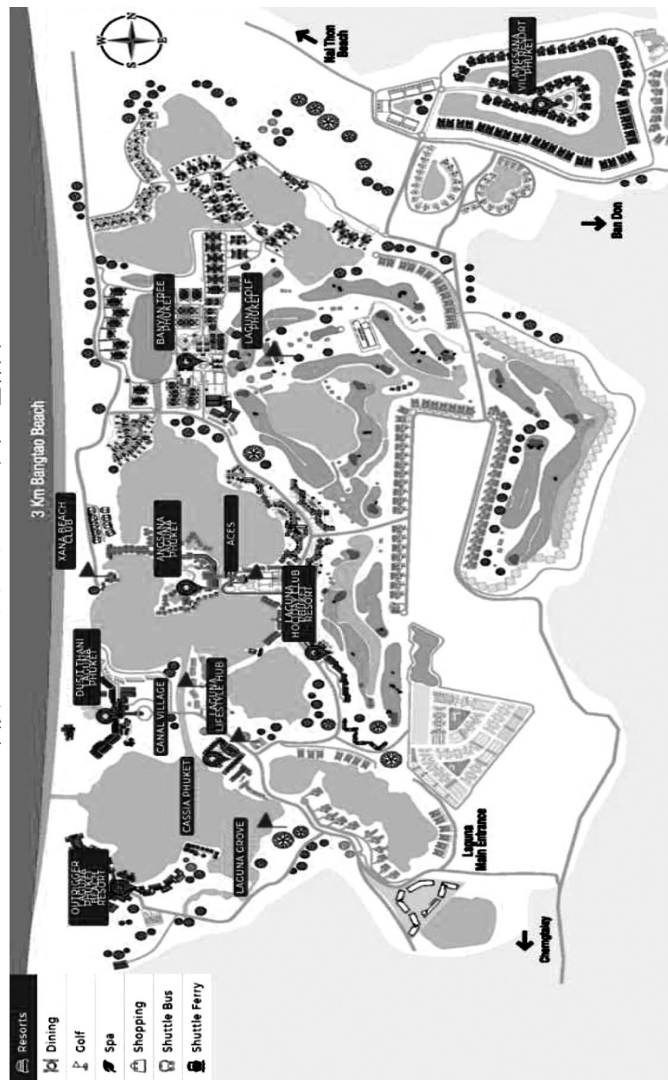
最初に目に入るのは、ダーワである。「Be Here, Be You.」というコンセプトを掲げており、カジ

写真1-1 エントランスの植栽文字



(注) 以下、本書内、特記以外の写真は著者撮影。

図表 1-3 ラグーナ・ブーケット全体図



出所：同社提供／Courtesy of Banyan Tree Hotels & Resorts Pte. Ltd.

写真1-2 カッシーアのロビー周辺



ユアルさをとまないつつ機能的、現代的なフルサービスのホテルという位置づけである。デザインにもこだわりつつ、快適性を高めるための多様な先進技術を貪欲に導入している。また、一人ひとりに合わせたサービス提供のために、多くのオプションを用意し、自宅でもくつろぐかのような滞在を実現している。プーケットでは滞在型のレジデンスとホテルとを併設しており、最低でも35㎡の占有面積を確保している。

次に見えてくるのはカッシーアとなる。コンセプトは“Live, Laugh, Love Your Way”であり、利用者が自由なスタイルで滞在を楽しめるさまざまな工夫がなされている。ロビーはポップな色使いが多うな絵が描かれている(写真1-2)。ダイニングスペースにはコンビニが併設されており、食材を買って自分で食事を用意することもできる。

プールサイドもポップでカジュアルなイメージが強調されている。色とりどりのパラソルが印象的だ(巻頭カラー写真4)。

客室には本格的なキッチンを併設し、自身で食事を調理できる環境も用意されている。もちろん調理器具も取り揃えられている。

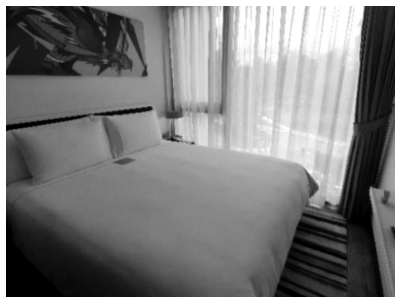
写真 1-3 客室のキッチン



写真 1-4 リビングルーム

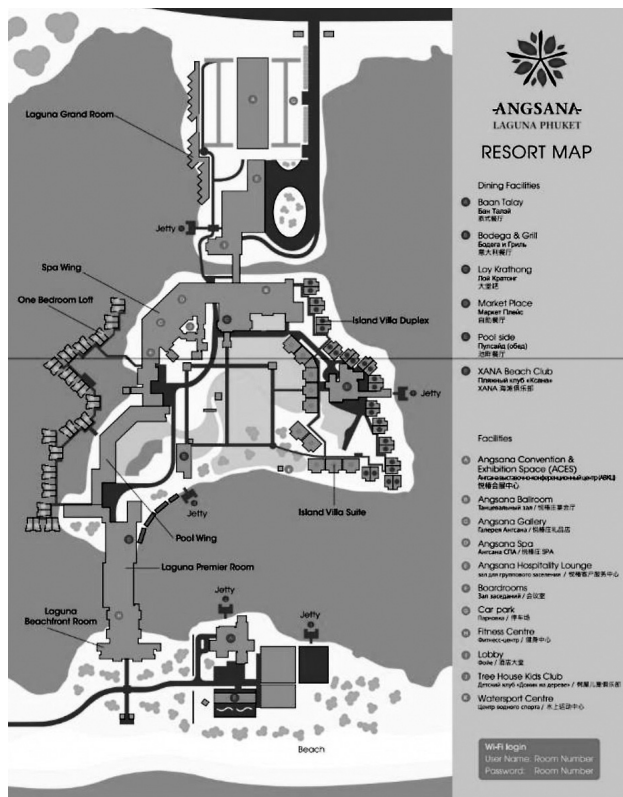


写真 1-5 ベッドルーム



リビングルームとベッドルームは一般的な家具・什器が用意されているが、壁にはロビーと同じコンセプトの絵が飾られている。

図表 1-4 アンサナのマップ



出所：同社提供／Courtesy of Banyan Tree Hotels & Resorts Pte. Ltd.

続いて見えてくるのは、ラグーンに囲まれるような立地のアンサナである。

“Sensing The Moment”、というコンセプトを掲げ、フラッグシップたるバンヤンツリーよりはややかジュアルで、カップルのみならず、ファミリー層、あるいは友人同士のグループ旅行にも最適な構成

写真 1-7 アンサナのエントランス



写真 1-6 アンサナの全景



写真 1-8 アンサナの敷地内

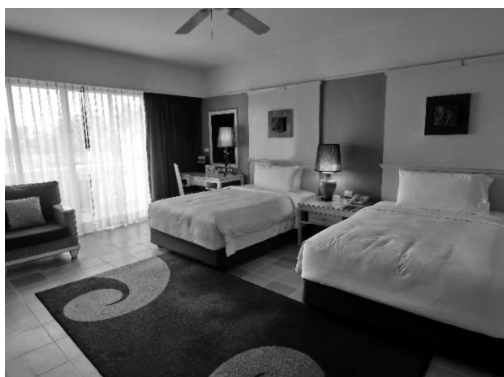


となっている。
広大な敷地を
活かして、低層
の建物が横に長
く広がっている。
また、ラグ
ーンをまたぐよ
うに建物群が配
置されているた
め、各客室から
はラグーンが眺
められるようにな
っている。中
央にはシンボル
タワーもそびえ
ており、リゾート
気分を盛り上げ
てくれる。

写真1-9 アクティビティも可能なプール



写真1-10 ツインベッドルーム



室も多い。いずれも、十分な広さを確保しており、ツインベッドのタイプが多数存在する。もアンサナの特徴的な点である。

また、水上シャレー形式の客室もあり、メゾネットとなっているものもある。この中には、屋外シャワーが用意され、ベッドもキングサイズ1台で、カップルにぴったりの客室も存在する。

多様な客層に
えられるよう、プ
ールも通常のタイ
プの他に、砂浜を
形成し、水中バレ
ーなど色々なアク
ティビティに利用
できるものも存在
する。そのプール
を見下ろすように
並んでいる客室
や、直接そのプ
ールに面している客

写真1-12 屋外シャワー



写真1-11 水上シャレー



写真1-14 リビングルーム



写真1-13 ベッドルーム



写真1-15 キッズクラブ



一方でファミリー層にも気軽に利用してもらえよう、キッズクラブもかなり充実した設備を用意している。子供向けのアクティビティも多くあり、長期滞在でも飽きがないよう工夫されている。

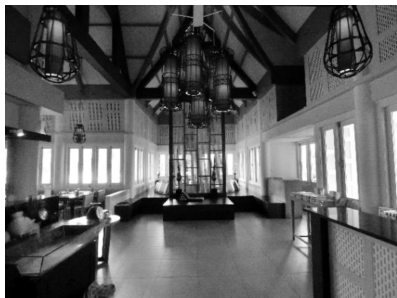
写真1-16 ビーチサイドのレストラン



写真1-18 プールサイドのバー



写真1-17 レストラン：Baan Talay



また、これも
長期滞在に重要
なポイントとな
る料飲サービス
施設も充実して
おり、ビーチク
ラブの屋外レス
トラン、フラッ
グシップのレス
トラン、プール
サイドのラウン
ジなど多彩であ
る。

3 バンヤンツリー・プーケット

そして、最後に見えてくるのがバンヤンツリーである。『A Sanctuary For The Senses』とのコンセプトのもと、全室プール付の独立したヴィラ形式であることを基本としており、ハネムーンをはじめとしたカップルに絶大な支持を誇っている。この「プライベート・プー付」というのがバンヤンツリーの大きな特徴である。

なお、ここまで紹介した各施設はラグーンに面しているため、バンヤンツリーを含め、施設間を船で移動することも可能である。

写真 1-19 車寄せ



写真 1-20 中央の菩提樹



バンヤンツリーの車寄せには、まさにバンヤンツリー（菩提樹）がそびえている。これを中心にロータリーが形成され、宿泊客のエントランス、スパのエントランス、そしてゴルフコース（Laguna Golf Phuket）のエントランスに三方を囲まれている。

図表 1-5 バンヤンツリーのマップ



出所：同社提供／Courtesy of Banyan Tree Hotels & Resorts Pre. Ltd.

写真 1-21 ロビー



写真 1-22 レセプション



写真 1-23 ロビー中央の池



ゴルフコースにはバンヤンツリー以外のラグーナ・プーケットにあるリゾートの宿泊客のみならず、他の地域から訪れる人々もおり、常に賑わっている。向かいにあるバンヤンツリーのエントランスは比較的静かである。しかし、200近いヴィラのエントランスだけあって、チェックイン・チェックアウト時はそれなりの活況を呈することになる。

宿泊客のエントランスを入ると、左手にチェックイン・アウトのためのフロント機能を持つデスクが並んでいる。通常は、その手前のソファのスペースに案内され、ウェルカムドリンクをいただきつつチェックインの手続きとなる。

写真 1-24 ラグーンから見たロビー棟



ロビー周辺には、他にライブラリー、レストランの「サフラン (Saffron)」やバーが配置されている。開放感あふれるロビーの向こうにはラグーンも広がっている。

シグナチャー・レストランの位置づけとなるのがサフランである。同名のレストランは他のバンヤンツリーにもあり、いずれでも同様の扱いとなる。プーケットではラグーンを見渡せる位置にあり、基本はディナーのみ、伝統的な調理法によるタイ料理が楽しめる。その他のレストランにはラグーンにせり出している席もある。

また、バンヤンツリーでは、「デスティネーション・ダイニング」と称する特別なディナー・プランが「サンヤ・ラク・ディナー・クルーズ (SanYa Rak Dinner Cruise : 愛の誓い)」と、ラグーンに浮かぶステージ状のレストランをひとり占めする「ディナー・フォー・ザ・センシズ (Dinner for the Senses)」が用意されている。

写真1-26 ディナー・クルーズの船



写真1-25 ラグーンにせり出す席



写真1-27 ラグーン上のステージ



また、スパに隣接し、メイ
ン・プールに囲まれた場所に
和食の「タイヘイ (Taihei)」
もある。こちらもディナーが
基本である。朝食はサフラン
の下に位置する「ウォーター
コート (Water Court)」で
摂ることができる。さらに、
ゴルフコースに面した「バン
ヤン・カフェ (Banyan
Cafe)」では、気軽な食事が
楽しめる。バーは、夜のみ営
業の「ロビーバー」と、昼間
時間帯のみ営業の「プールバ
ー」がある。

なお、後述する「ダブルプ
ール・ヴィラ (Double Pool
Villa)」の利用者には、専用

写真1-29 メイン・プール



写真1-28 メイン・プール



写真1-30 写真撮影スポット



のレストランである「トレ (Tre)」も用意されている。
チェックイン手続きが終わると、電動カートに案内され、
いよいよヴィラに向かうことになる。全室プール付の独立し
たヴィラ形式であるため敷地が大変広く、ヴィラによっては
徒歩での移動が大変な場所にある。途中でメイン・プールな
どを横目に移動していく。

メイン・プールはリゾートらしく変形となっており、一部
にいわゆる「流れる」ようになっていたり「打たせ湯」
のような仕組みがあるほか、
レストランに食い込んでい
るような部分もある。

敷地内には、先ほど紹介し
たラグーン内の「ステージ」
以外にも「写真映え」するス
ポットが多数用意されてい
る。たくさんの木が並んでい
る小径や、夜になるとライト
アップされる東屋など、多く

図表 1-6 バンヤンツリー・プーケットの客室一覧

名 称	定員	ベッドタイプ	広さ	眺望
Serenity Pool Villa	2 名	King	140m ²	Pool View
Banyan Pool Villa	2 名	King	170m ²	Pool View
Banyan Lagoon Pool Villa	2 名	King	170m ²	Lagoon
Signature Pool Villa	2 名	King	270m ²	Pool View
Grand Lagoon Pool Villa	2 名	King	270m ²	Lagoon
Signature Two Bedroom Pool Villa	4 名	King & Twin	350m ²	Pool View
Grand Two Bedroom Pool Villa	4 名	King & Twin	380m ²	Pool View
Serenity Three Bedroom Pool Villa	6 名	King & 2 Twin	435m ²	Pool View
Spa Pool Villa	2 名	King	550m ²	Lagoon

出所：同社資料より著者作成。

のカップルが撮影に興じているのを目にする。
さて、ここからはいよいよ客室を説明する。

バンヤンツリーはプライベート・プール付のヴィラのみで構成されている。プーケットの場合、もともと小さいヴィラ (Serenity Pool Villa) でも 140 m² の広さがあり、もともと大きな Spa Pool Villa は 550 m² もある。いずれもキングサイズのベッドを基本とした構成で、一部にファミリー向けの、ツインのサブ・ベッドルームを備えたヴィラも用意されている。

ベースはセレニティ・プール・ヴィラ (Serenity Pool Villa) である。ベースとはいえ十分すぎる広さといえよう。専用プールも 17・5 m² あり、いつでも好きなときに楽しむことが可能である。

この上のランクであり事実上のベシック・ラインとなっているのがバンヤン・プール・ヴィラ (Banyan Pool Villa) とバンヤン・ラグーン・プール・ヴィラ (Banyan Lagoon Pool Villa) である。違いは景色、すなわち、ラグーンに面しているかどうかのみとなる。

ここでは前者のレイアウトと写真を掲載する。170²mの占有面積を誇るスペースに、3・5m×6mと、十分な大きさのプールが用意され、屋内外それぞれにくつろぐためのスペースが配置されている。バスルームもかなりの広さがあり、バスタブはアウトドア。周囲が壁で囲われているため景色は望めないが、逆に「おこもり」にはぴったりであるといえる。

その上がシグナチャー・プール・ヴィラ (Signature Pool Villa) とグラนด์・ラグーン・プール・ヴィラ (Grand Lagoon Pool Villa) であり、いずれも270²mの占有面積がある。専用プールは9m×3m、デイベッドを備えたサラ (東屋) も用意されている。前者のレイ

図表1-7 Banyan Pool Villaのレイアウト

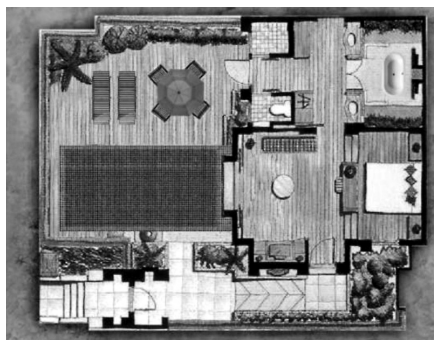


写真1-31 同ヴィラの写真



出所：以下、図表1-9、写真1-36まで同社提供／Photos courtesy of Banyan Tree Hotels & Resorts Pte. Ltd.

ドが置かれたメイン・ベッドルーム以外に、ツインベッドが置かれるセカンド・ベッドルームが用意され、4名での利用が可能である。どちらのベッドルームにもバスルームが用意されている。前者のヴィラは350㎡、後者は380㎡の占有面積となっている。3・5m×9mのプールを備え、ダイニングスペース、リビングスペースも広い。ミニキッチンや書斎も用意されており、すべての設備を使いこなすのは大変かもしれない。レイアウトと写真は後者である。

図表1-8 Signature Pool Villaのレイアウト

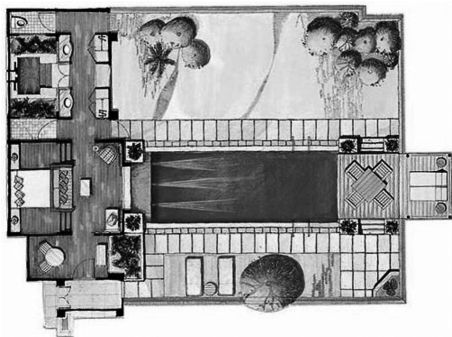


写真1-32 同ヴィラの写真



アウトと写真を掲載する。

シグナチャー・2
ベッドルーム・プ
ール・ヴィラ (Signature
Two Bedroom Pool
Villa) とグランド・
2ベッドルーム・プ
ール・ヴィラ (Grand
Two Bedroom Pool
Villa) はいずれも、
キングサイズのベッ

セレンティ・3ベッドルーム・プール・ヴィラ (Serenity Three Bedroom Pool Villa) は435²mで、キングベッド1台のメイン・ベッドルームに加えて、ツインベッドが置かれたベッドルームが2室ある。

スパ・プール・ヴィラ (Spa Pool Villa) は550²mの占有面積を誇る、最大の客室である。ベッドルームはユリの池に囲まれ、床から天井までの窓とあいまって、きわめて開放感にあふれた「フローティング・パビリオン」となっている。専用プールも3・5×11・5mある。さらに、本カテゴリーに宿泊のお客様は、1泊につき60分のスパ・プログラムを受け

図表 1－9 Grand Two Bedroom Pool Villa
のレイアウト



写真 1－33 同ヴィラの写真



図表 1-10 Double Pool Villa by Banyan Treeの客室一覧

名 称	定員	ベッドタイプ	広さ	眺望
1 Bedroom Double Pool Villa	2 名	King	1,300m ²	Lagoon
2 Bedroom Double Pool Villa	4 名	King & Twin	1,500m ²	Lagoon
3 Bedroom Double Pool Villa	6 名	King & 2 Twin	2,500m ²	Lagoon

出所：同社資料より著者作成。

ることが可能である。

どのタイプも、非常にゆったりとしたスペースが確保され、かつ、必ずプールが付いていることがこのリゾートにおける大きな特徴となっている。

4 ダブルプール・ヴィラ

一方で、ここには最上級のカテゴリとして、通常のヴィラとは別に「ダブルプール・ヴィラ (Double Pool Villa by Banyan Tree)」というタイプも用意されている。

ダブルプール・ヴィラのエリアには、まるで高級別荘地のように、森の間にヴィラが点在しているのが見取れる。占有面積は桁が変わり、もっとも狭い(?) 1ベッドルームでも1,300m²もの広さを誇って

写真 1-34 ダブルプール・ヴィラの遠望



図表 1-11 2 Bedroom Double Pool Villaのレイアウト：右がメイン・プール、左下のベッドルームを囲んでいるのがサブ・プール



出所：同社提供／Photos courtesy of Banyan Tree Hotels & Resorts Pte. Ltd.

いる。その広大なスペースに、なんとプライベート・プールが各ヴィラに2つずつ用意されている。これが名称の由来である。2006年に開発された、いかにもバンヤンツリーらしいヴィラであるといえよう。

1ベッドルームは1,300²m²の占有面積を誇り、多くの木々や花々で囲まれている。本格的なキッチンも用意されており、完全にプライベートの環境で、ヴィラ内でフルコース料理の提供も可能である。

2つあるプールのうち、「ヴィラのメイン・プール」といえるのは、リビングルームに面したインフィニティ・プールであり、15m以上の長さがある。バスルームからも専用の庭越しにプールを眺めることが可

写真1-35 ダブルプール・ヴィラのエントランス



能である。庭園にはもちろんデイベッドが付帯したサラも用意されている。

もう1つのプールは、寝室を取り巻くように配置されている。深さはそれほどではなく、いわゆる「プランジプール」に類するものであるが、面積的にはかなりの広さがある。ベッドルームは床から天井までの大きな窓で囲まれているので、まるでプールに浮いている神殿のようである。

ベッドルームが2つある2ベッドルームは、占有面積も1,500^m2に及ぶ。1ベッドルームとは、ツイン・ルームが設置されたセカンド・ベッドルームとそれに付随するバスルームがある点が異なっている。メイン・ベッドルームは1ベッドルームと同様である。以下の説明は、2ベッドルームのものである。

ヴィラの入り口には自転車が用意され、広大な敷地内を自在に走り回ることが可能である。もちろん電動カートを呼ぶこともできる。また、各ヴィラにはヴィラ・ナンバーとともに、顧客名も掲げられる。

ヴィラの入口を入ると、まっすぐに廊下が続いている。廊下の突き当たりにあるガラスの扉をあけると、そこには客室の中核となるリビングとダイニングのス

写真 1-36 ヴィラのエントランス内部



写真 1-37 ダイニングスペースから庭とプールを望む



ペース、そしてその向こうに「ヴィラのメイン・プール」（このような表現は他で聞いたことがない）が広がっている。

客室のメイン・スペースには、左右それぞれにリビングスペースとダイニングスペースが配置されている。巨大な窓の向こうには、広大な専用の庭に囲まれるように、メイン・プールが広がっているのを眺めることが可能である。

写真1-38 ヴィラのメイン・プール



写真1-39 ジャグジーとメイン・プール越しのラグーン



写真1-40 アウトドア・シャワー



メイン・プールは15mもの長さがある。ちょっとしたリゾート・ホテルのメイン・プールにも匹敵しようかというこのプールを占有できるというだけで、誰もが気持ちを昂ぶらせることだろう。そして、そこにはジャグジーも用意されている。周囲は広い庭となっていて、その庭の周囲は樹木で囲まれ、完全にプライバシーが保たれている。庭の一角には、アウトドアのシャワーも設置されていて利便性が高い。

写真1-42 ベッドルーム（昼）



写真1-41 ベッドルーム（夜）



写真1-44 サブ・プールとベッドルーム



写真1-43 サブ・プール越しのベッドルーム



さて、メインのベッドルームをご覧いただく。前述したようにこのベッドルームは、周囲をサブ・プールで囲まれている。深さはかなり浅く、「泳ぐため」のプールとはいえないが、半身を水に預けつつシャランを楽しむなど、多様な使い方ができるだろう。

途中でも少し触れたが、バンヤンツリーのプールに對するこだわりは並大抵ではない。この点は、第3章の解説で詳しく触れるので、頭の片隅に置いておいていただきたい。

メインのバスルームは庭

写真1-45 メイン・バスルームのバスタブから
眺めるメイン・プール



写真1-46 バスルーム



とメイン・プールに面したところにある。こちら也非常に広く、ここだけでちょっとしたホテルの客室に匹敵するかもしれない。

大きなリビングスペースとは別に、天井の高い書斎的なスペースも用意されている。そしてその奥にはセカンド・ベッドルームがあり、こちらにはツインベッドが置かれていて、十分な広さのバスルームも用意されている。なお、写真は掲載していないが、お手洗いはもう1つあり、合計3箇所にあることになる。

写真1-48 天井を見上げる



写真1-47 書斎

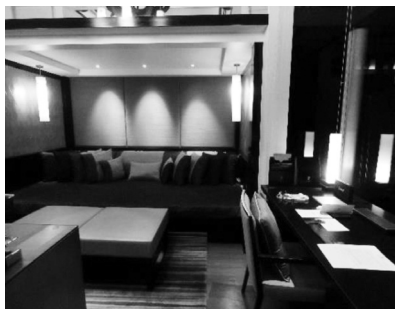


写真1-50 フローティング・ブレイク
ファースト



写真1-49 セカンド・ベッドルームと
バスルーム



最高峰のヴィラが3ベッドルームであり、占有面積は2,500²mにも及ぶ。2ベッドルームにさらにもう一組、ツイン・ベッドのベッドルームとバスルームを足したものであり、サラも大きなものが用意されている。

いずれのダブルプール・ヴィラも、電話一本でサービスに応じてくれるバトラーが待機している。また、ダブルプール以外を含め、「イン・ヴィラ・ダイニング」を楽しむことが可能である。特に、最近ではプールに浮かべる朝食が人気を

集めている。

その他の施設も、さまざまなものが用意されている。

バンヤンツリーではスパも非常に評価が高い。プーケットでは、「ウエルビーイング・サングチュアリ」と称して多様なプログラムを提供している。加えて、前にも述べたがスパを毎日受けられる権利を付帯させたヴィラまで存在する。

メイン・プールは、スパの近くからラグーンに近いところにまで広がっている。かなりの大きさがあり、端から端まで行こうとすると、相当時間がかかる。

これも前に述べたが、ゴルフコースも隣接地にあり、ミーティングルームも用意されているので、ある程度の規模であればMICEにも対応できる。

5 アマンプリ

バンヤンツリーから自動車で20分程度、ラグーナ・プーケットの入口からは（渋滞がなければ）10分少々だが、夕方以降と朝は渋滞が激しいため倍以上の時間がかかる、そんなローカルの人々が行き交う道を進んでいくと、スリン・ビーチの入口に出る。そこから、バンタオ・ビーチとの間にある半島に進むと、この半島全体が「アマンプリ (Amanpuri)」となっている。

起伏に富んだ敷地内には、「パビリオン (Pavilion)」と名付けられた通常の客室と、「ヴ